



平成 30 年 4 月 13 日
附 属 病 院

附属病院が「肝疾患診療連携拠点病院」に指定 肝疾患の診療・相談の拠点機能を担います

横浜市立大学附属病院は、平成 30 年 4 月、神奈川県「肝疾患診療連携拠点病院」に指定されました。

代表的な肝疾患であるウイルス性肝炎は、自覚症状がなく感染時期も特定できないため、本人が気づかないうちに肝硬変や肝がんなどの重篤な肝疾患に罹患する病気として知られており、我が国にも多数の患者がいます。大きな課題として、副作用の少ない治療方法や治療に係る費用の助成制度等の情報が得られず、患者が肝炎検査で陽性を指摘されながらも受診に繋がっていないケースや、治療と仕事の両立に悩んでいるケースなどがあります。

当院では、肝疾患に係る適切な情報を提供し、個々の事情に合った支援を行うため、相談窓口として「肝疾患相談室」を開設しています。特に治療と仕事ができる環境づくりを支援する「両立支援」において、治療中の働き方や治療費のこと、復職についての相談などにきめ細かく対応していきます。

また、附属病院は神奈川県内で唯一の成人生体肝移植実施施設です。生体肝移植を治療の選択肢に検討する患者の相談・支援を行います。さらに、生活習慣から生じる非アルコール性脂肪肝炎（NASH）に対しては、体を傷つけずに肝硬度測定機器による検査が可能です。患者だけでなく、医療機関からの肝疾患に関する相談にも応じ、地域における肝疾患の拠点機能を担っていきます。

<肝疾患相談室>

- 相談時間：月曜日～金曜日（祝日を除く）9時30分～16時30分
- 電 話：045-787-2800（代表）
- 相談体制：肝臓学会専門医、医療ソーシャルワーカー等による相談

<肝疾患診療連携拠点病院とは>

肝疾患に関する情報提供、肝炎患者や家族の相談支援、研修等の機能を備える医療機関で、全国の都道府県で71施設が指定。神奈川県内では横浜市立大学附属市民総合医療センター、聖マリアンナ医科大学病院、北里大学病院、東海大学医学部附属病院に加えて当院の5施設。

—主な活動—

1. 肝疾患に係る一般的な医療情報の提供
2. 都道府県内の医療機関等に関する情報の収集や紹介
3. 医療従事者や地域住民を対象とした研修会・講演会の開催や肝疾患に関する相談支援
4. 疾患に関する専門医療機関と協議の場の設定